

令和元年度 神村学園専修学校  
第1回 学校関係者評価 議事録

評価対象期間 自：平成31年4月1日  
至：令和2年3月31日

令和2年3月  
学校関係者評価委員会

# I 令和元年度 第1回学校関係者評価委員会 議事録

日 時：令和2年3月14日（土） 13：30～15：00

場 所：神村学園専修学校 第一講義室

学校関係者評価委員：

氏名	所属	役職
勘場 明 様	有限会社みその	代表取締役会長
島谷 精利 様	青山幼稚園	理事長
道岡 尚子 様	ゆのもと記念病院	副総師長
向井 隆二 様	新門整形外科	副院長
山下 孔明 様	いちき串木野市医師会立脳神経外科センター	通所リハビリテーション管理者

神村学園専修学校参加者：

氏名	所属	役職
神村 慎二	神村学園専修学校	校長
松ヶ野 透	神村学園専修学校	副校長
西山 圭介	神村学園専修学校	副校長
渡 裕一	神村学園専修学校	教頭
川畑 孝美	神村学園専修学校	看護学科副校長
田川 知恵子	神村学園専修学校	リハビリテーション学科長
中森 健二	神村学園専修学校	理学療法学科長
黒木 辰朗	神村学園専修学校	作業療法学科長
植屋 よしの	神村学園専修学校	看護学科長
下木 猛史	神村学園専修学校	こども学科長
大山 千佳子	神村学園専修学校	日本語学科長

進行：

## 1. 開会のあいさつ（挨拶、配布資料確認）

<校長 神村 慎二>

みなさま、本日は神村学園専修学校、学校関係者評価委員会にご出席いただき、誠にありがとうございます。この委員会では、私共の日ごろの取り組みや考え方について、まずはご理解いただき、よりよい学校運営でできますこと、質の高い学生指導ができますようご意見をいただくことを目的に開催いたしました。本日はどうぞよろしく願います。

## 2. 委員会の要旨・目的等について・議長選出

<副校長 西山 圭介>

自己点検・自己評価につきまして、平成30年度末に本校専修学校職員に実施しました自己点検・自己評価の結果のまとめをご説明いたします（資料に沿って説明）。この評価は、職員による義務として実施しております。総括として、概ね適切であるという結果でございますが、外部関係者からの評価という点で不十分であったとの結果を受け、改善の必要性を考えております。

続きまして、この学校関係者評価委員会は、文部科学省より出されたガイドラインに沿って行います（文部科学省ガイドラインに沿って説明）。

次に、各学科より報告いたします。その前に、規定の第6条に「委員長は委員会を招集し、その議長となり委員会を代表する」あることから、本校神村慎二校長に議長をお願いいたします。

## 3. 報告事項

<議長 神村 慎二>

議長に選出されました神村です。皆様からの積極的なご意見・ご質問をよろしくお願いいたします。

それでは、各学科より募集状況・国家試験合格者数・就職状況等報告をお願いします。

<理学療法学科 田川 知恵子>

理学療法学科は、スポーツ関係で優れた講師陣を揃えております。また、国家試験対策では早くからの取り組みをしておりますので、高い合格率を確保できています。

入学してくる学生の特徴として、部活動などスポーツに関心のある学生や、部活動を通してチームワークを重視する学生が多いと思います。国家試験では、多くの卒業生が有資格者として社会で活躍しておりますが、国家試験不合格であった学生については、次年度

4月より学校を無償で開放し、勉学に取り組める環境を提供しています。

#### <作業療法学科長 黒木 辰朗>

作業療法学科は、あらゆる分野に精通したバリエーション豊かな講師陣を揃えております。また、次年度入学生も含めこれまでに3名の外国人留学生を受け入れ、令和元年度に卒業しました卒業生は、自己採点レベルではありますがかなり余裕をもって合格ラインを上回っております。入学してくる学生の特徴として、心理学的側面に関心のある方が多いのが特徴です。ここ数年、全国的なことでもありますが、本校も国家試験合格率が下降しているため、十分な対策を講じる必要があります。作業療法学科では、他校にはあまりない病院奨学金制度もありますので、この点をアピールし、さらに充実させていこうと考えております。

#### <看護学科長 植屋 よしの>

世間一般的に、看護師というイメージは定着化しているであろうことから、志す学生一人一人を大切にしたい指導を心がけています。本校は3年課程、60名定員であり、30名2クラスの小人数2クラス制をとっています。学生の特徴として、元気のいい学生が多いですが、学習習慣がまだ定着していない者も多い印象です。男子学生は全体の1/4ほどで、他校よりも積極的な受け入れをしています。国家試験に関しては、合格率が全国平均を下回ってしまったこともあり、今後の課題でもあります。現在の課題としては、入学者が途中退学・休学などしてしまうこともあるため、原因をしっかりと分析し、対策を講じていく必要があります。看護学科の特徴として、豊富な病院奨学金制度があり、現在8割ほどの学生がこの制度を利用し学んでいます。

#### <こども学科長 下木 猛史>

こども学科では、現役や社会人の受け入れももちろんですが、長期高度人材育成コースというものにも取り組んでいます。この制度を使って入学することで、卒業と同時に保育士資格を取得可能で、多くの社会人の方からの希望をいただいております。就職についてはほぼ100%で、保育に関わる施設に就職しています。離職率の高い職種ですが、本校卒業生はほとんどそういうことはなく、3年目を迎える卒業生30名のうち、そのまま3年目を迎える者が29名となっております。課題として、現役生と社会人が共存する環境となっており、適切な学習環境の整備が重要課題である。

#### <日本語学科長 大山 千佳子>

進学1年半コース、2年コースがあります。しばらく定員を満たすことができていたが、この2年ほど低下傾向にあります。原因として、入管難民法の改正が最も考えられ

ます。短期コースの利用者が増加傾向にあります。日本語学校は、ほとんどが大都市圏に存在していますが、地方（鹿児島）には5校あります。学園内は様々な年齢層が存在しており、学生たちには学びの多い環境です。日本語学科は5段階のクラス編成を行い、個々の能力に合った学習を支援しています。現在在籍する学生は、ほとんどがベトナムとネパール出身者となっています。近年、国公立大学への進学率が低下傾向にあるので、この点が課題と考えております。学生たちはアルバイトを通じて、地域の方からも温かく受け入れていただいております。

<議長 神村 慎二>

ありがとうございました。

委員の皆様からご意見・ご質問はございませんか。

#### 4. 意見交換

<議長 神村 慎二>

ないようですので、自由意見交換の場を設けさせていただきます。どのようなことでも結構ですが、いかがでしょうか。

<委員 島谷 精利 様>

この会は学校評価でしょうか？それとも学校関係者評価でしょうか？

<副校長 西山 圭介>

学校関係者評価委員会となります。

<委員 島谷 精利 様>

私は幼児教育分野ですが、どこの養成校でも学生数が減少していると耳にします。そのような状況の中、高校生はもちろん、もっと早い段階での職業理解も必要ではないかと考えます。神村学園であれな、初等部や中等部の生徒さんなどへ、職業理解のための紹介などをなされていますか。

<こども学科長 下木 猛史>

これまでに、高校生以外の生徒・児童には取り組んでいませんでした。しかし、今のお話をうかがって、現在の学生たちが中学生の頃の職場体験学習で保育園に行って、この職業を目指したなどの話を聞きます。今後ぜひ検討していければと思います。

<委員 山下 孔明 様>

理学・作業それぞれ分野に特徴があると思いますが、入学してくる学生さんたちも、本来の目標に沿った就職先へと就職されていますか。

<リハビリテーション学科長 田川 知恵子>

学んでいく中で興味の移り変わりもあり、はじめの興味のままだが3割ほど、いろいろ学びたいと総合病院を選ぶ者が多いのが現状です。

<委員 山下 孔明 様>

本人の思い(興味)と実習先のジャンルのギャップがあるように感じることもあります。難しいとは思いますが、そのあたりもご配慮いただければ、学生さんたちも夢実現に向けて近づけるのではないかと思います。

<委員 山下 孔明 様>

27年度から、入学者が減少した理由について何か考えられることがありますか。

<議長 神村 慎二>

団塊の世代の定年と、それに伴う就職率の向上が起り始めたことが考えられます。

<委員 向井 隆二 様>

神村学園の掲げる人柄教育・個性教育はとても素晴らしいですね。

ぜひ学んでほしいと思いますが、国家試験合格率などの出口を上げる努力も必要ですが、例えば偏差値など入り口を上げるということは可能でしょうか。

<教頭 渡 裕一>

入口を上げれば出口も上がると思いますが、入学者の減少も考えられ、定員確保が厳しくなることも考えられます。それに加え、近年の子どもたちの耐性の低さを考えると、入り口の基準を上げるのは不安もあります。

<委員 向井 隆二 様>

現場の我々療法士がもっと努力して、職業としての魅力を発信していかなければなりませんね。

## 5. その他

### <議長 神村 慎二>

それでは、来年度の各学科の目標についてお願いします。

### <理学療法学科 田川 知恵子>

国家試験 100%に向けて、具体的な取り組みをしていきます。

### <作業療法学科長 黒木 辰朗>

合格率を上げること、入学者を増やしていくことを目標に、オープンキャンパスを見直し、単純な繰り返しにならないよう工夫していきます。

### <看護学科長 植屋 よしの>

合格率向上に向け、教員一丸となって取り組みます。また、ゼミを導入したことで学年をまたいだメリットも見られたので、意欲面のサポートに気を付けていきます。

### <こども学科長 下木 猛史>

2年間かけて、社会性、コミュニケーション力、創造力を高めていくことに取り組んでいます。次年度は、それぞれについて具体的なリストを作成し、呈示していきます。募集面では、高等部への働きかけをしっかりとしていきたいと考えます。

### <日本語学科長 大山 千佳子>

募集を充実させます。また、進学先への合格率の向上、地域貢献を目標としています。

### <議長 神村 慎二>

ありがとうございました。

このような目標のもと、次年度も質の高い教育ができるよう、頑張ってください。引き続きご指導のほど、よろしくお願いいたします。

## 6. 閉会のあいさつ

### <副校長 松ヶ野 透>

委員の皆様、本日はご出席いただきありがとうございました。また、非常に前向きで有益なご意見もいただき感謝いたします。どうぞこれからもご意見・ご指導よろしくお願いいたします。本日はありがとうございました。